

新潟脳神経研究会第 304 回例会

日 時： 平成 27 年 3 月 17 日（火）午後 6 時～
場 所： 脳研究所 1 階 検討会室

- 1) **光学イメージングを用いて可視化された新しいマウス聴覚野マップ** (25分)

塚野 浩明 (新潟大・脳研・システム脳生理学分野)

聴覚野研究の多くはマウスを用いて研究されている。今も多くの聴覚野研究がベースにする聴覚野マップは、電気生理を用いて Stiebler が約 20 年前に発表した古いものである。しかし近年、光学イメージングの発達で大脳皮質の空間情報を精度よく観察出来るようになり、マウスの聴覚野マップを描き直す試みがなされている。我々は、この度、フラビン蛋白蛍光イメージングや解剖学など様々な方法を総動員し、聴覚野に新たな領域を発見し、マウス聴覚野マップをより正確なものに大幅に描き直すことに成功した。さらに新領域の神経活動には性差があることも判ったので合わせて報告する。

- 2) **マルチオミックス解析により明らかになるアルツハイマー病関連分子ネットワークの乱れ** (25分)

菊地 正隆 (新潟大・脳研・遺伝子機能解析学分野)

アルツハイマー病(AD)は単一の生体分子よりむしろ複数の生体分子による細胞内システムの異常によって引き起こされる。本研究では AD 患者死後脳のトランスクリプトームデータと公共データベースが提供するインタラクトームデータを統合することにより AD の進行に伴う生体分子間の相互作用の乱れを観察し、解析を行った。

- 3) **Pathological and clinical spectrum of a sporadic four-repeat tauopathy, progressive supranuclear palsy: with special reference to astrocytic tau pathology** (20分)

横山 裕一 (新潟大・脳研・病理学分野)

進行性核上性麻痺 (PSP) は臨床症状が多様であり、pallido-nigro-luysian atrophy (PNLA) もその中に含まれるという報告がある。我々は今回、PSP と PNLA でアストロサイトのタウ病理が異なることを明らかにした。また、タウ病理の広がりを加味してさらに病理組織学的に分類した後、その臨床経過を比較すると、PNLA 症例の中に優位に経過の長い一群が存在することがわかった。

- 4) **限局性皮質異形成の Balloon cell における p57/Kip2 発現について** (20分)

木村 正志 (新潟大・脳研・病理学分野)

Balloon cell (BC)は幾つかの皮質形成異常症で認められる病理学的特徴であるが、その形成機序は未だ不明である。今回我々は、限局性皮質異形成の BC に p57/Kip2 (サイクリン依存性キナーゼ阻害因子 Cip/Kip ファミリーのひとつ) が特徴的な存在様式で発現することを見出したので報告する。

どうぞ奮ってご参加ください。

(担当：遺伝子機能解析学分野/池内)
新潟脳神経研究会幹事代表：西澤正豊